提案８　良好な水環境の創造

キャッチコピー　身近な連携から情報発信

情報発信のポイント

○身近な連携（自治会、ＮＰＯ、市役所内の関係部局）から情報発信をスタート
○広域的な連携を模索しつつ情報発信
○ターゲットは、職員のハート（意識改革）と他事業者

１．　今までの情報発信

（取り組み状況）

○『高度処理を推進し、河川や運河の水質改善を行います』、『雨天時にオイルボールなどのゴミの流出を抑制するために、オイルフェンスや簡易の合流式下水道の改善施設を積極的に設置していきます』などを記載した、パンフレットや施策の冊子を作成し、住民に配布。
○東京都では、『油・断・快適！下水道』というキャッチコピーを打ち出し、民間企業と連携して、買い物にくる主婦層をターゲットに、家庭からの合流改善を提唱
○計画段階から近隣の小学生に参加を依頼し、連携してビオトープを建設。
○出前授業の開催。（下水道全般）

（課題・問題）

○下水道部局に限定された取り組みとなっている。
○ビオトープの建設は、住民と連携した取り組みであり、新しい試みであるが、対象範囲が特定地域（人）に絞られており、取り組みによる効果が波及されにくい。
○『油・断・快適！下水道』も新たな取り組みとして一般家庭への合流式下水道の改善への提唱として効果を発揮したが、提携グループが１つということもあり、今後更なる拡大を図る必要がある。
○下水道部局でクローズするような既存の事業では、広域的な情報発信することができない。（下水道部局が他部局を巻き込んで、率先して水環境をＰＲできるはず。）
○職員一人一人が意識改革し、連携拡大（相手）が必要。（下水道管理者は、河川や海域の管理者でないため、放流先と連携した一体的な取り組みが必要。）
○水環境の改善を評価する指標（ＢＯＤ）は、分かりにくい。
水環境の状況が誰もが一目でわかるような指標が、設定されていない。

２．　下水道未来計画研究会としての提案、提案を受けて想定される情報発信

まず、できることを！短期的事業展開として・・・【単一の市の中でクローズ】

○「下水道管理者の《水辺空間創造・開発計画》＝情報発信」を提案。
・下水道管理者が主体となり、『○○地域の水質改善を強力に推進します。○○地域の水辺空間の再生を連携（協働）して行いませんか』や、『水辺空間を利用した新たな

レジャースポットを開発していきませんか』など、市内の関係部局に積極的に提案を行う。

・ 様々な関係部局と連携することで、多方面から水環境の戦略的情報発信を展開することができる。同時に、下水道事業者の広報費用を抑えることができる。特に観光部局との連携は効果が絶大である。

〈下水道事業者発の情報発信の第一歩として〉

① 合流式下水道の改善等を行う周辺で、港湾・河川部所に護岸などの整備を同時に行うことを提案する。

②更に連携の枠を広げ、副次的な効果が高いと思われる、観光部局とも連携を図っていく。

③合意が得られ事業化した際には、連携事業として広報（プレス発表等）をし、地元自治会・ＮＰＯなどの水辺に関係のありそうな団体等へ連携事業実施・効果の説明を行う

④市民に事業効果を確認して頂けるよう、事業期間中や事業完了後などに、見学会などを開催する。この時、地域のイベントと一体的なものとなるよう、地元自治会、ＮＰＯなどに『水辺祭り』などの同時開催を提案する。

⑤用地の占用要望（ブース、オープンカフェ、（ビア）レストラン、盆踊り会場など）があれば積極的に対応していく。

⑥住民等の反応が良好な場合には、複数の場所で実施していく。

※④で下水道管理者から地元自治会・ＮＰＯ等への提案となっているが、逆に下水道管理者の参加を求められる可能性が非常に高い。

さらに、長期的な事業展開として・・・（複数の市町村に跨る広域連携）

○下水道管理者から他の自治体の下水道管理者や河川管理者などの他の公物管理者に、「合流式下水道の改善や下水の高度処理＝水環境の創造」を提案し、広域的な情報発信を行っていく。

○上記の提案を河川等の他の公物に関するNPO等に働きかけ、広域的な情報発信を行っていく。

○水環境改善による効果を分かりやすくＰＲするために、水域・海域管理者と連携して、新たな指標を設定。

・新たな指標を設定する際には、誰もが一目でわかるように個々人が実感できる視点にたつことが重要である。そのために、「人と水辺のふれあい」「豊かな生態系」「利用しやすい水」の観点から検討を行う。また、地域特性を反映できるように、その水域・海域管理者と連携しつつ、その地域の住民を巻き込んだ検討を行う。

・新たな指標を水辺に設置又は学校、住民に配付。学校の野外学習等を通じて水辺の生物の観察を行いながら、水質の状況がどの程度かを併せて判断できる研究材料とし、現在の水質と今後の水環境をどうすべきかを考えるきっかけ作りとする。

・自治体、ＮＰＯ等により、水辺に係わる住民の集まりやすい場所で、その水域の水質状況を新たな水質指標を用いて公開する（水辺の生物、水辺の臭い、水環境改善にともなう想定集客数等の具体的な比較指標）。

・以上の取組等を実施することにより、水環境改善における下水道の役割、重要性をＰＲ。

身近な連携から情報発信

下水道管理者から下水道以外の管理者・事業者へ

水辺空間の整備等を逆提案

都心で海水浴

緑あふれる
憩いの海辺

水緑あふれる
オフィス整備

自然環境の保全

生き物に
やさしい干潟

海の公園整備

多様な生き物
を育む海辺

連携事業

**多方面からの
情報発信**

観光は、人々が来ないと成立しない・・・

観光との連携は人々に効果的に波及

東京都港湾局提供

新たな指標に向けた観点

◇人と水辺のふれあい　どんな水辺であそびたい？

近寄りたくない水辺

釣りくらいならできる水辺

（でも、水の中には入りたくない・・・）

人があつまる水辺

◇豊かな生態系　どんな生物が住んでいるの？

生物が生息・生育・繁殖しにくい

生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない

生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好

◇利用しやすい水　水を利用するのに適している？

水の色、水の安全性（大腸菌の数）・・・　等